



福井大学教育学部附属
義務教育学校

No. 5

令和4年3月11日

学校だより

卒業式に思いを寄せて

後期課程 卒業式 校長式辞より

温かな陽射しが増し、新たな芽吹きを感じる春。美しい季節が訪れる栄えあるこの佳き日に福井大学教育学部附属義務教育学校を巣立つ105名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

予断を許さないコロナ禍ではありますが、ご多忙中、本日は、保護者の皆さまにご参列いただき、卒業式を執り行うことができますことを卒業生とともに喜び、感謝のお礼を申し上げます。高い所からではございますが、本当にありがとうございます。

さて、皆さんは、入学式の翌日以降、一貫して学年全体で討論を重ね、意見を練り上げていく活動を大切にしてきたと聞きました。そうした時間を共有しながら、7年生の6月、「主体的でありたい」「信頼を得たい」「個性を発揮し認め合いたい」という3つの願いを込めて、学年目標「107のキセキ」を誕生させたそうですね。カタカナの「キセキ」には、理想の学年像で出てきた目標を三年間ですべてクリアする「奇跡・ミラクル」と、その足跡として残る「軌跡」、さらには、一人一人の個性を表した「輝石」や「稀石」、「奇石」という意味合いが込められているとのこと。皆さんは、自分自身と学年全員が歩んだ3年間を振り返り、今、どの漢字のキセキを脳裏に思い浮かべていますか。

先ほど、卒業証書を授与いたしました。学級担任の読み上げに凜とした返事で応える一人一人の姿はまさに、皆さんが目指した理想の学年像に成長した証だと感じました。そして、さらなる輝きを希求する新たな旅立ちへの決意も、ひしひしと伝わってきました。皆さんが、これから、どんな目標を定めて自分を磨き続けるのか、どんなキセキを生み出すのか、期待に胸が膨らみます。

ふり返れば、皆さんとの出会いは2年前でした。学校が再開した6月、教科の授業や社会創生プロジェクトの活動で、自由闊達に対話しながら協働探究する姿が、30年前に本校を卒業した担任学年の118名の姿と重なり、親近感を抱きました。同時に、集団として底力ある学年だと直観したことを鮮明に覚えています。さらに、皆さんの対話の根底には仲間を慮る(おもんばかる)感情が感じられ、温かな人間関係から信頼感が醸成されています。学年全体が一家族であると、修学旅行に同行して実感しました。修学旅行の解団式の時、「皆さんは先生も含め、学年全体が家族になっている」と話したことを覚えていますか？

生徒会活動や学校行事、部活動で示した明快な主体性とコミュニケーション能力は、メンバーのチームワークを高めました。また、強い使命感から、附属の音楽文化を後輩に託す合唱への熱い取組に、学級や学年を愛するだけでなく、本校を愛する深く、誇らかな(ほこらか)思いを皆さんから感じてきました。



皆さんは、この2年間、コロナ禍真ただ中で学校生活を送り、多くの活動が制限されてきました。特に、社会創生プロジェクト活動と学校祭が、大きく影響されました。社会創生プロジェクトテーマ「Happy world in the future」では、「何が幸せに直結するのか」を考え22グループで取り組んできたものの、校外の活動ができず、校内での活動を余儀なくされました。修学旅行もin福井でしたが、皆さんはこの校外活動の場を生かし、グループごとの幸せを探究し続けました。学びの成果を発表する5月。オンラインを交えた開催の中、多様な幸せを探究した各グループの発表内容は充実していて、実に見事でした。このイベントを見せていただき、皆さんの逆境をものともしないたくましさ、何よりも切り替えの早さと柔軟なクリエイティブ思考に感銘を受けました。そしてその経験と力は、本校の最大の学校行事である体育祭と文化祭でも発揮されました。夏休み中の活動が全て閉ざされ、授業再開後に準備を進めなければならない状況に追い込まれたものの、「レボリューション」のテーマで大成功させた体育祭。制限下での3学年全員で創りあげた「ジュース アップ」(燃料を補給する)というテーマの文化祭。短時間で企画し、当日の運営を成し遂げた各実行委員会の仕事ぶりは素晴らしかったです。それにも増して、皆さんの底力を感じたのは、同時進行で取り組みながらも、応援合戦とクラス演劇を両立させ、どちらも例年以上の作品に仕上げたことです。互いの個性を認め、仲間を信頼し合う人間関係を確立してきた皆さんだからこそ、成し得たことだと思います。これらの経験を大切に、仲間とつながり合い、生きている喜びを伝えられる人間になってほしいと願います。

皆さんはこれから、予測困難な時代とも言われる未知なる世界を進むこととなります。社会で役立つスキルとして、クリエイティブ思考、クリティカル思考、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が重視され、「問題解決能力があり、困難な事態にも協調性を持って取り組める人材」が求められるグローバル社会を生きるのです。

皆さんの伸びる力に限界はありません。「実力の差は小さいが、努力の差は大きい」と言う言葉があります。また、中国の文学者で作家であった魯迅は、「自己満足をしない人間が、永遠に前進し、永遠に希望をもつ」と言っています。

皆さんが、これからの人生において、自分の道を信じて常に希望を抱き、その希望を成就させるために、粘り強く努力を続けてくれることを願っています。安易に周囲に流されることなく、自分の感情や行動をよりよくコントロールしながら、あなたのキセキを求めて挑戦してください。心から期待しています。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。思春期の子育てに悩まれ、ご心労もおありだったことと存じます。しかし、どんな困難な時であっても、お子様たちは、本校で体験してきた主体的・探究的な学び方を基盤に、自律した学習者として、これからの人生を、力強く生きぬいてくれるものと信じております。今日まで、本校の教育活動へお寄せくださいました温かいご理解とご支援に、心より、感謝申し上げます。

最後に。卒業生の皆さん、まず、健康第一。そして、共に学んだ友だち、本校をいつまでも誇りに思ってください。新しい世界に向かってあなたの持てる力が発揮されることを祈念しています。時折、後輩たちの活躍ぶりも、見に来てもらえたらと願っています。105名の子どもたちを温かく見守り励ましていただいたすべての皆さまに、深く感謝を申し上げ、式辞といたします。

令和4年3月 11 日

福井大学教育学部義務教育学校

校長 北 典子